



	INF	REF	こども	電話	メール	中央計	行徳	BM	南行	信篤	平田	駅南	全館計
12月	752	525	420	60	6	1,763	383	67	146	120	37	563	3,079
1月	714	552	438	15	1	1,720	529	56	133	111	39	541	3,129
累計	8,112	5,680	5,918	548	34	20,292	4,962	530	1,503	1,206	413	5,319	34,225

🔍 今月のレファレンス記録票から

分類

質問と内容

I/C5 行徳橋北詰付近にある地藏石碑「姉弟地藏」に刻まれている「横断歩道横断中交通事故」とはどのような事故だったのか。石碑には昭和 47 年 12 月 18 日とある。

『市川市の石造物』（市立市川歴史博物館 2008）p.59 の地藏菩薩 No.28 に石碑に刻まれた文字の記載はあるが、事故の詳細は分らない。

『千葉日報』（マイクロフィルム）での記事確認を千葉県立中央図書館へ依頼。1972（昭和 47）年 12 月 19 日の 8 面に「江戸川堤防に”姉弟地藏”を建立 子供二人の霊慰める」の記事が見つかった。「父親の待つレストランへ急ぐ途中、母とこども 3 人がタクシーに跳ね飛ばされた。」という事故だった。母親と 2 人の子どもが亡くなった。

175.5 三峯神社（埼玉県秩父市）の狼信仰について、古文書の記載も含め「御産立（オコダテ）」という神事について書かれたものを見たい。

『国史大辞典 13 ま・も』（吉川弘文館 1992）p.380「三峯信仰」の項に「江戸時代の記録に、狼の産立の声を聞いた村人の知らせに、酒小豆飯をその近くに備えたことがみえ、現在も御焚上（おたきあげ）と称し、毎月十日・十九日御飯屋社に小豆飯を備える。」とあることから、「御産立」について江戸時代の記録があるか国立国会図書館デジタルコレクション（以下、「国会デジタル」という）で検索した。その結果、『西郊民俗（116）』（『西郊民俗談話会』1986）p.20-26 早川由宇子「狼の伝承」に、「三峯神社の『日鑑』寛政十一年七月九日の条にもつぎのように産立を行ったとある。御神犬御出産奥院より南二丁程脇ニ当り有之由、尤産立為御悦儀右供備のものは夜七ツ時いたし候との事。」との記載を見つける。寛政十一年の年代に該当する『三峯神社日鑑 第1巻（自安永8年至寛政12年）』（横山晴夫／校訂 三峯神社社務所 2000）は、国会デジタル（国会図書館内限定）等で見る事ができる。また、明治時代の書籍で『三峯山誌』（石倉重継／著 聞勝閣書房 明 39）p.16-18 にも「御産立」の神事の詳細な記録がある。こちらも国会デジタル（図書館・個人送信限定）で閲覧可能。<https://dl.ndl.go.jp/pid/764408/1/22> 2026.2.26 確認

その他に、『オオカミの護符』（小倉美恵子／著 新潮社 2011）には著者が立ち会った三峯神社の神事の記載があり、『柳田國男全集 3』（柳田國男／著 筑摩書房 1997）、『三峯神社』（山崎エリナ／写真 グッドブックス 2018）にも「御産立」についての記載があった。

488.1 生物学用語の「シナントロープ」について詳細が記載された資料はあるか。

『私の愛鳥講座』（柴田敏隆／著 東京書籍 1984）p.179 にシナントロープ（Synanthrope）の項があり、その意味と特徴などが詳述されている。

『動物生態学 下』（エヌ・ペー・ナウモフ[他]／著 ラティス 1967）p.163 「住民拠点とシナントロープ動物」の項で主に旧ソ連のシナントロープをめぐる状況について解説あり。国会デジタル（図書館・個人送信限定）で閲覧可能。<https://dl.ndl.go.jp/static/notSupportedInternetExplorer.html> 2026.2.26 確認

シナントロープという言葉が登場する書籍として他に『鳥・とり事典（漢字百話 鳥の部）』（日本野鳥の会／監修 大修館書店 1988）、『森の探偵』（宮崎学／著 小原真史／文・構成 亜

紀書房) あり。我孫子市鳥の博物館の企画展示「第 81 回企画展 我孫子の都市鳥 都市の発展と鳥たちの移り変わり」の「4 人と共にくらす鳥たち」に“シナントロピックな鳥たち”の行動について解説あり。我孫子市公式ウェブサイト「我孫子市鳥の博物館」で閲覧可能。(<http://www.city.abiko.chiba.jp/bird-mus/index.html> 2026.2.26 確認)

762.6 ブラジルの吟遊詩人(ヘペンチスタ)についての資料はあるか。

伝統的な民衆文学コルデルについて書かれた『ブラジル民衆本の世界 コルデルにみる詩と歌の伝承』(ジョゼフ・M・ルイテン／著 中牧弘允／[ほか]訳 御茶の水書房 1990)p.57-「五 リテラトゥーラ・デ・コルデルの口承的側面」の項に「旧大陸の先祖たちと同様に、ブラジルの即興詩人たちも町から町を渡り歩き、農場、製糖工場などを訪れ、また宗教的祝祭、定期市、種々の記念祭など、人の集まる場所を最大限に利用している。彼らは見聞したり、知っていることのすべてを歌にする。」との記述あり。

かつて発行されていたブラジルの新聞「ニッケイ新聞」Web 版 2013 年 3 月 2 日号の「ブラジル文学に登場する日系人像を探る 6_ジョゼフ・M・ルイテン「ブラジルのコルデル文学」_民衆本にうたわれる日系人」という記事で「よく歌われたのが英雄もので、ランペオンやカヌードスの乱、奇跡ものではシセロ神父、時事ものではジェトゥリオ・ヴァルガスの死などです。しばしば即興的に民衆とやり取りしながら歌詞を変えていくのでレペンチスタ(即吟者)とも呼ばれ、作詞者はトロバドル、歌い手はカンタドールといわれました。」と紹介されている。(<https://www.nikkeishimbun.jp/2013/130302-62colonia.html> 2026.2.26 確認)

『吟遊詩人の世界』(国立民族学博物館／監修 川瀬慈／編集 河出書房新社 2024)p.185-文化人類学者の今福龍太氏によるコラムに「そして、ブラジル北東部の荒野の辺境生活が生んだ智慧を都会人に向けて批判的に突きつけたレペンチスタ(=即興詩人)の象徴パタチーヴァ・ド・アサレこそ、私の探求が行き着く究極の叙事世界のささやかなヒーローである。」とあり。

他にもこんな質問ありました (クイック・レファレンスから)

分類	質問	⇒ 回答、補足事項、蘊蓄など
C10/	千葉県にはなぜ熊がいないのか⇒『ツキノワグマ すぐそこにいる野生動物』(山崎晃司／著 東京大学出版会 2017) p.55 に「房総半島には古くからツキノワグマの記録はなく、また大都市の人口稠密地帯に囲まれているため、今後もツキノワグマが出現する気配はないだろうし、またそうなることは好ましくない。」とあり。環境省実施の調査でも千葉県内でのクマ生息情報はなし。(https://www.biodic.go.jp/youchui/reports/h30_chuogata_houkoku_teisei.pdf 2026.2.26 確認) 2025 年 12 月 27 日付の「読売新聞オンライン」に千葉県立中央博物館研究員の見解として以下の記事あり。「本州唯一の「クマなし県」、縄文時代まで遡っても痕跡確認されず...「仮に来てても定着しない」」(https://www.yomiuri.co.jp/national/20251226-GYT1T00389/ 2026.3.13 確認)	
080	四六書院が出版した「通叢書」とはなにか⇒『三省堂の百年』(三省堂 1982／千葉県立中央図書館所蔵) p.127 に「四六書院は三省堂の別会社とはいいい条、実体は三省堂出版部の一部門であった。いわゆる”柔ラカモノ”専門で、その出版物は昭和 5、6 年ころの世相を敏感に反映している。」「通叢書」は昭和 5 年 1 月から翌年 4 月まで、計 46 点が刊行されている。」と記載あり。『をどり通』『芸妓通』『そば通』などがあり、各巻の著者はその道の通人・達人だった。	
210.02	江戸時代の女性が書いた手紙文を読み解きたい⇒入門書として『寺子屋式古文書女筆入門』(吉田豊／著 柏書房 2004) を紹介。	
337.8	明治時代の上野から浅草までの人力車の料金を知りたい⇒『国民必携年中宝鑑 訂 4 版』(益世館 明 34) p.26 の「自上野停車場至府下各區人力車賃銭表」に「浅草区 八銭ヨリ拾七銭」とあり。国会デジタル(一般公開)で閲覧可。(https://dl.ndl.go.jp/pid/898080/1/15 2026.2.26 確認)	
721.9	西郷孤月の絵が載っている本はあるか⇒当館の蔵書では『東京芸術大学創立 100 周年記念展 日本画・彫刻』(東京芸術大学／編 朝日新聞社／編 朝日新聞東京本社企画第一部 c1987) p.48 歴代教官作品の項に「春暖」(明治 30 年作) が収録。	
728.8	空海の『風信帖』が見たい⇒『シリーズ書道基本名品集 10』(比田井南谷／編 雄山閣 1985) p.3-13 に収録。p.70 の解説に「『風信帖』は空海が最澄に送った書状(返信)で、現存する三通を集めて一巻としている。」と説明あり。	